

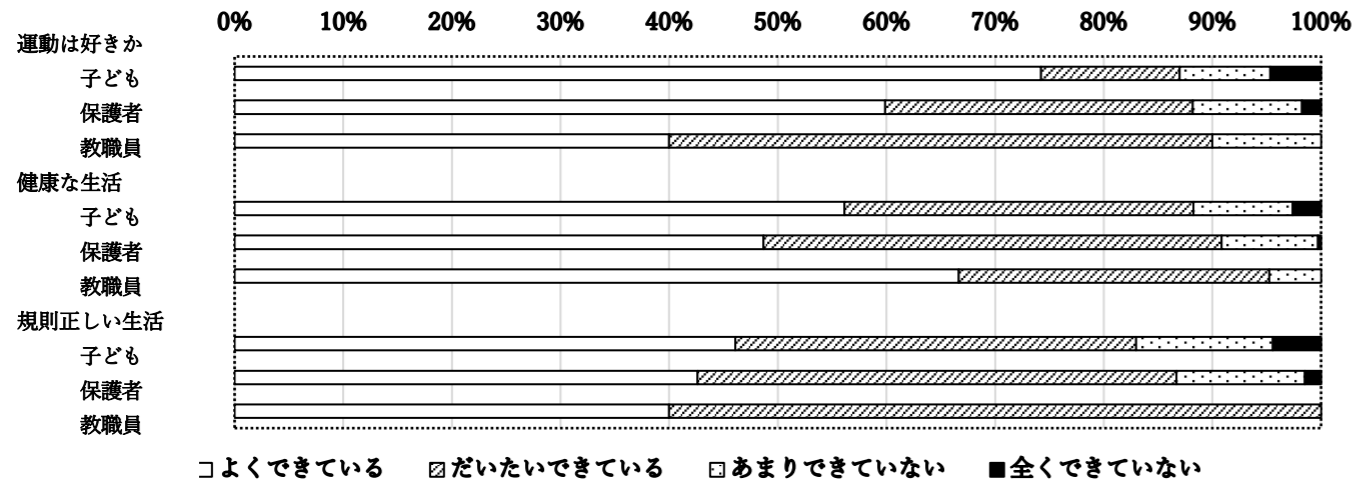
保護者様

横浜市立稲荷台小学校
校長 池田 勉

教育活動評価の考察とアクションプランについて

昨年12月に実施した教育活動評価へのご協力、ありがとうございました。
86%という高い回収率でご回答いただいたことを真摯に受け止め、保護者の皆様のご意見を今後の教育活動に生かしてまいりたいと思います。12月中に児童・教職員も同じく教育活動評価を実施いたしました。「毎日楽しく登校しているか」の結果と関連付けて各領域の分析を行い、その結果を今後の教育活動にどのように生かしていくのかを次ページ以降に示しました。
今後とも、稲荷台小学校の教育活動にご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

運動、健康な生活、規則正しい生活習慣



- **生涯にわたってスポーツを楽しめる子どもを育てます。**
 - ・ 8割を超える児童が「運動が好き」と感じています。その一方で運動に対して消極的な児童が約1割います。小学生の時期は、大人になっても体を動かし健やかに過ごせるための土台作りと考えます。

アクションプラン

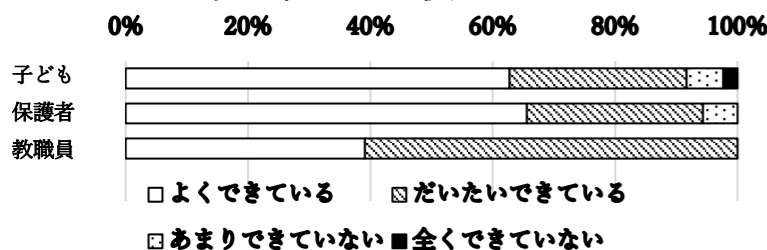
- ・ 体育の授業では、児童が、運動の楽しさやできる喜びを実感できるよう、教職員で実技研修を行い、指導力の向上に努めます。
- ・ 運動が苦手、嫌いと感じている児童には、レクや集会、中休みの取組を通して「体を動かすのは楽しい」と感じていけるような工夫や支援、声掛けをしていきます。

- **健康的な生活をしてやる気もアップ!**
 - ・ 健康を考えて生活している児童、また、規則正しい生活が身についていると実感できている児童、保護者はともに8割をこえています。睡眠時間をしっかり確保するなど、規則正しい生活を送ることと学力とは深い関係があるという、興味深いデータもあります。

アクションプラン

- ・ 来年度の学校保健委員会では「規則正しい生活習慣」をテーマに取り組みます。
- ・ 保護者と連携し、継続的に自分の生活を振り返りながら、規則正しい生活習慣を意識した生活ができるようにしていきます。

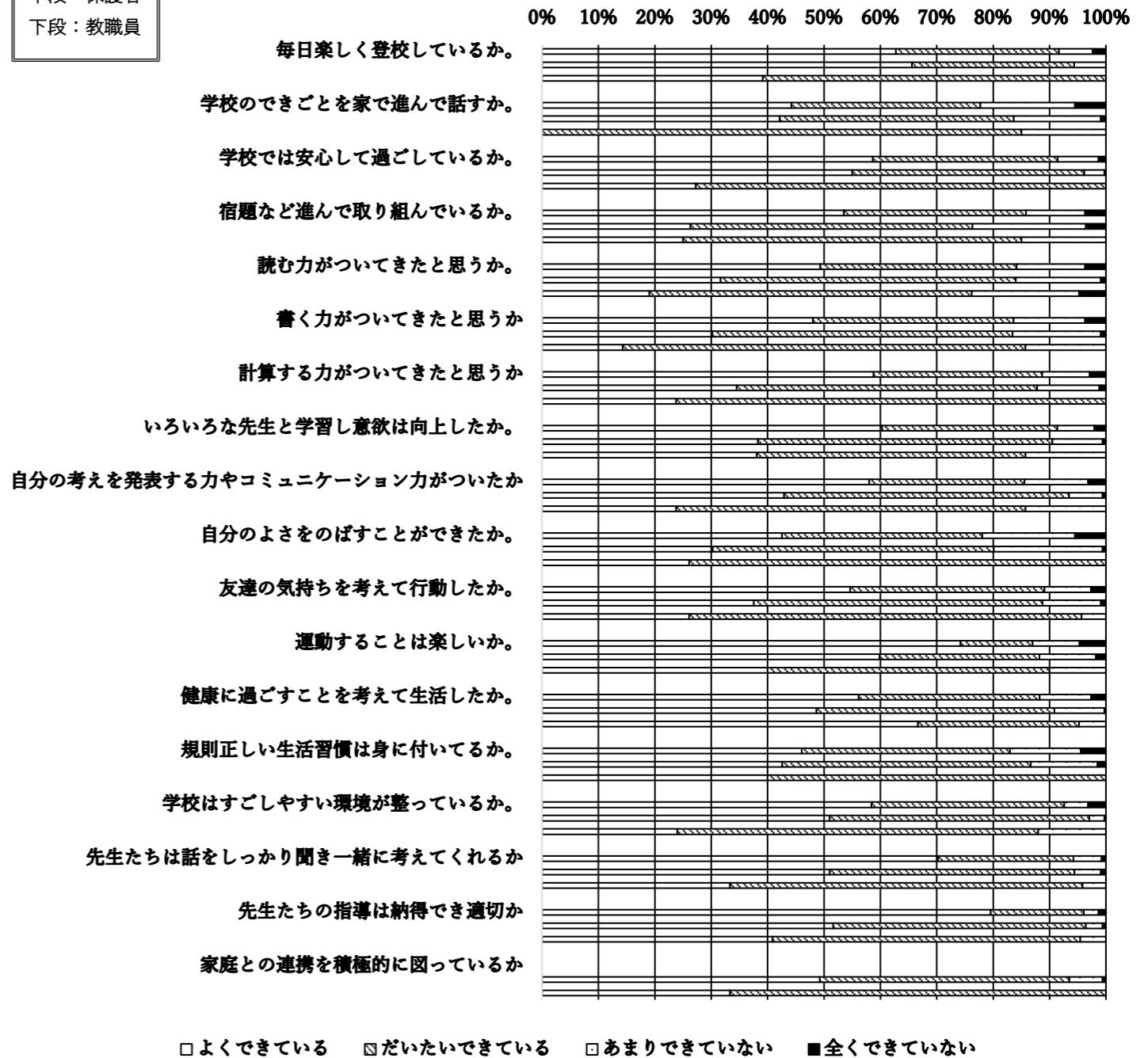
毎日楽しく登校しているか



子どもたちは毎日楽しく登校しているだろうか?この結果を重く受け止め、分析、改善案を協議しました。
来年度は7月、12月に教育活動評価を行い、計画の見直し、新たなアクションプランを検討し実践していきます。

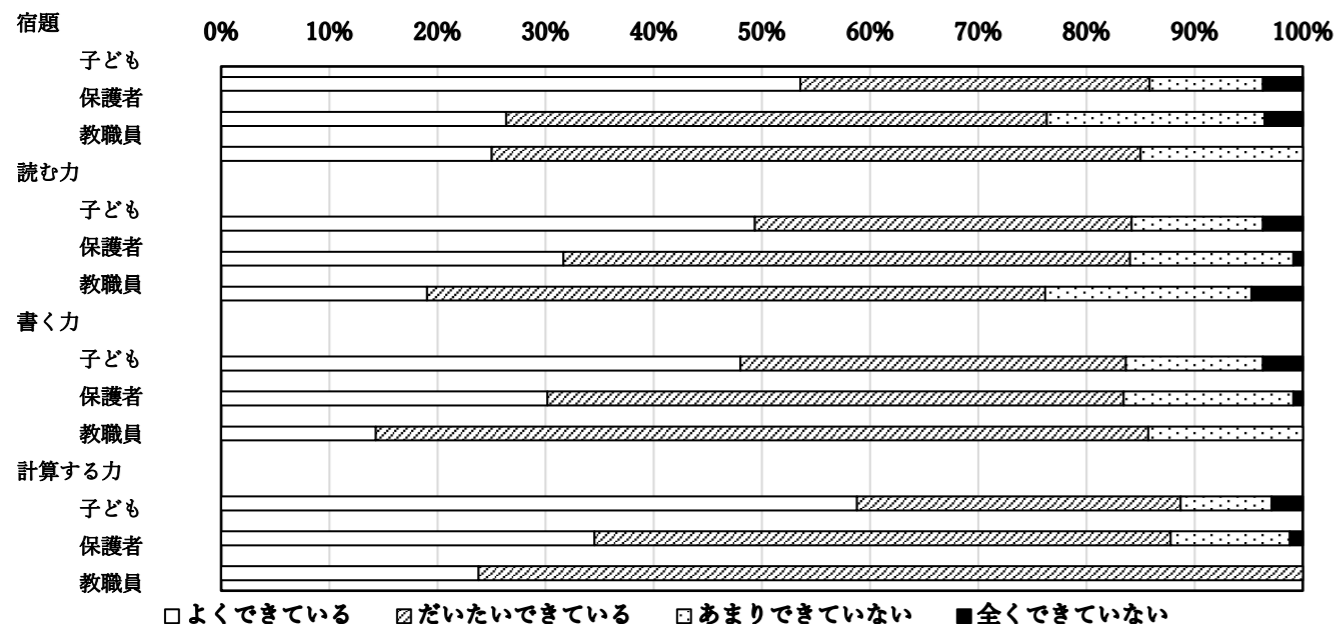
子ども・保護者・教職員 比較

上段：子ども
中段：保護者
下段：教職員



学力の向上について

宿題、読む力、書く力、計算する力



○ すすんで宿題に取り組む習慣がついてきている子どもたち

- ・ すすんで家庭学習に取り組んでいる児童が8割を超えています。保護者は「だいたいできている」を含めて7割を示しています。
- ・ 「読む力」「書く力」が宿題やスキルタイムでついたと感じている児童は多くいます。
- ・ 計算力がついたかは、読む力、書く力に比べ、「できている」の割合は高いです。学習した内容を復習したり、活用したりできる課題を設定することで、「できる」の実感につながると考えられます。

アクションプラン

◇授業とより関連付けて取り組めるものにするなど、家庭学習内容の質を向上させていきます。

○ 読む力 音読に力を入れていきます。

- ・ 保護者にも読む視点が伝わるよう、評価項目を工夫した音読カードにします。
- ・ 国語の教科書だけではなく、生活科、社会や理科の教科書の音読にも取り入れます。

○ 書く力 全校で作文ノートを準備し、家庭学習で週1回の日記を課題にします。

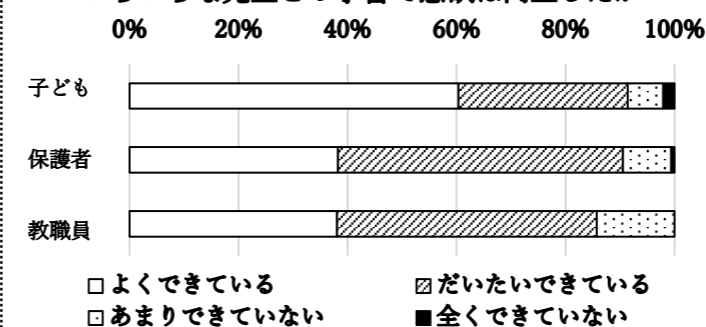
- ・ まとまりを考えさせたり、字数を決めたり、表現を工夫したりできるようにします。
- ・ ノートを使うことで、字数感覚を養い、まとまりを考えながら書くことで、書くことに対する苦手意識をなくし、何をどのように書けばよいのかを迷わずに書く経験を重ねていきます。また、自分が書いた内容、書き方の変容に児童が気づき、保護者の方にも子どもの書くことに対する成長が捉えやすくなると考えます。
- ・ 漢字練習は一文字ではなく、熟語やその漢字を使った短文などをつくることで、生活の中で漢字を使うことを意識させていきます。

○ いろいろな先生との学習を通して、学習意欲の向上につなげる。

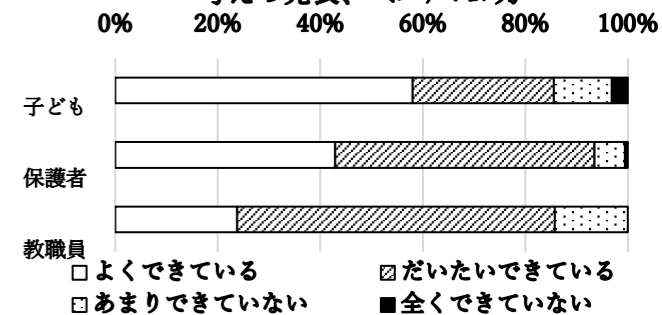
- ・ 児童の意欲向上は6割をこえている。保護者、教師の「よくできている」の割合が4割をきっている。教師は、学年の児童の実態把握、情報共有などがしやすくなったというメリットがあります。

○ 発表する力やコミュニケーション能力を高め、学習意欲や自己有用感の向上につなげます。

いろいろな先生との学習で意欲は向上したか



考えの発表、コミュニケーション力

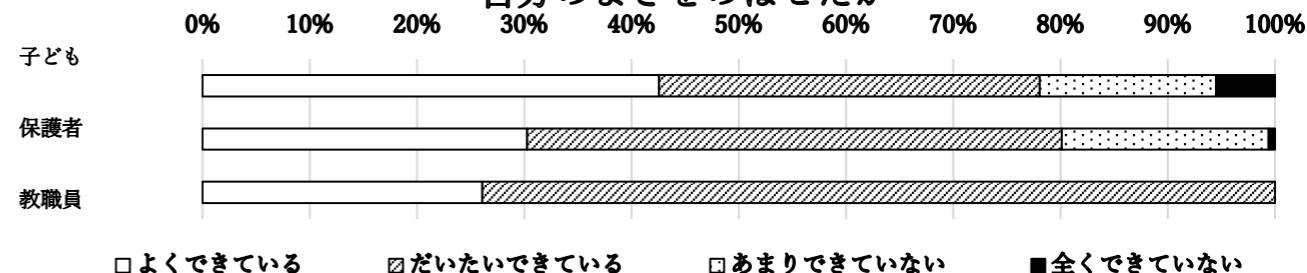


アクションプラン

- ・ 学校だより、学年だよりに加えロイロノートなどを活用し情報発信する機会を増やしていきます。家庭にも取り組みを周知していきます。
- ・ これまで以上に発言の価値づけや話型の提示、言葉で伝えるだけでなく、書くことでの交流などを行っていきます。

自己有用感の向上について

自分のよさをのばせたか



○ 児童の「自己への気づき」と「自己評価の向上」をサポートします。

- ・ 約9割の児童が「楽しく登校できている」と感じ、約1割の児童が「登校するのが楽しくない」と感じています。また、8割弱の児童が「自分のよさをのばせた」と感じ、2割強の児童がよさを伸ばせなかったと感じています。アンケートを分析すると、この2つの項目は特に相関関係が見られました。
- ・ 子どもたちが自分の可能性を信じ、楽しみながら生涯に亘って成長していくには、適正な自己評価に基づく「自己への気づき」と「自己評価の向上」を実感することが大切だと考えています。

アクションプラン

- ・ 年2回学校評価を行うとともに、子どもの実態を把握するためのアンケートの活用方法について研修を行い、児童の現状を多角的に見取ります。
- ・ 見取りをもとに、苦手なところを克服し、得意なところをさらに伸ばす支援を行います。
- ・ クラス全体や少人数での交流的活動、グループワークを活用し、仲間作りの場を授業に取り入れます。
- ・ 学習(授業・スキルアップタイム・家庭学習)生活両面において、“がんばり” “できた”を見取り、温かい声掛けを増やします。
- ・ 「友達のよいところ見つけ」を5月・10月・3月に行い、プラスの他者評価から自分を振り返る機会を作ります。